

由自在に歩行する事が出来色は紫赤色又は煉瓦色にて餘程の年月を閲したる古蟹にて日本にきたのは今度が初めてだそうです。以上は最近新聞紙に見えました面白い動物の二三を挙げました。此の他上野の動物園では鶏が孔雀を解し濠洲産の鶴も丹頂も目下卵を抱いて居るそうですから間もなく可愛らしい雛鶴が生れる事でありませう。

### 乳媪の選擇 (婦人衛 生雜誌)

母親が自分の乳で其子を育てると云ふのは、これは天の定めたる處で、又實に其義務で有ります、凡て善い事に天然を利用してゆくのは智慧ある人間の務むべき事でありますが、これを悪用し或は自然の法則に反けば、必ず相應の罰を免れません。古來我邦の婦人は、一般に自分の乳を以て小兒を育ててまゐりましたが近來に至りましては、西洋流に格別なる理由もないのに、動物の乳をもつて

育てる様な悪習が這入て參りました。これを人工營養と申しまして、自然營養に對して悪用するものであります、而してその結果の不良なる事は、醫師の明かに認めて居る處であります。一體牛の乳は牛の子を育てるに適當して居ります、人間の子を育てるには不適當なのであります、然るに牛乳で育てた方が却て良いなど、云ふ愚なる事を申す者が間々あります、そのみならず人の體には他から這入つて來る處の毒に對して、其害を防ぎ毒を消す處の働きがあつて、小兒に乳を飲ますれば小兒の身體にもこれが移つて行きます、他の動物の乳や、其他の物を以てする人工營養の小兒に於ては其力が遙かに弱いのであります、これら種々の原因からして、人工營養の自然營養に劣つて居る事が明かでありまして、實際人工營養の小兒が病氣に罹り易く、病氣に罹れば癒り難く自然營養の小兒に比して其の死亡數が非常に多いのであります、それでありますから、決して牛乳などを以て小兒を育てずには是非母親自身の乳を以て育てる様にしなければなりません。然

しながら、實際そうばかりはゆかぬ場合がありま  
す、それは、どう云ふ場合かと申しますれば、乳  
房の發育が不完全で小兒が哺乳する事の出来ない  
場合、生來乳のでかたが不足で小兒を養ふ事の  
出来ない場合、例へば乳腺炎だとか、其他の乳房  
の病氣で乳が十分出ないやうなものであります、  
又分娩時の出血が餘り多かつた爲に母の身體がひ  
どく衰弱して居る時、褥熱に罹つた時、乳頭に皸  
裂が出来て痛みの烈しい時は無論であります、  
尙病氣では、結核、著るしい神經素質の遺傳ある  
人、重い腺病、高度の貧血、心臟瓣膜病、癩癩、  
重き歇斯的里、急性傳染病、脚氣などでありませ  
以上の場合には、其乳をもつて小兒を育てる  
事は出来ません、茲に至つて初めて人工營養と云  
ふ事の必要も起つて來るのであります。そう云ふ  
譯で人工營養でなければ小兒を育てる事が出来な  
いとなりますると、これは中々面倒な事でありま  
して、母親の乳なれば、元來その兒を育てるに最  
も適當して居つて、始めから終りに至る迄其成分  
が小兒の成長に丁度比適して、申し分がなく、何

等の面倒もなく自然に育てる事が出来ますが、人  
工營養となりまると、矢張り動物の乳を選ばな  
ければなりません、これには、自然其成分が最  
も人間の乳に近い、馬とか、山羊とかを選びます  
が、これは一寸得難い、そこで止むを得ず普通牛  
乳を用ゆるのであります、其成分が人間の乳に  
は餘程遠いので、色々調合して用ゐなければな  
りません。そればかりでなく、乳房から直に飲む  
のとは違つて、牛乳屋が搾り取つて賣るのであり  
ますから其間には随分不正な混雜物をしたり、尙  
夏季などは腐敗し易く中々安心して飲ませる譯に  
は參りません。それでは、なんぞ乳でないものを  
もつて育てる事が出来るかと云ふに、これは尙一  
層困難な事でありまして、乳粉とか申して米とか  
麥とか、或は豆などの粉をもつて育て様としても  
三四ヶ月に至ります迄は小兒の身體の中にはこれ  
らの澱粉を消化する作用が備はつて居りませんか  
ら、身體の養ひとはならず、只胃腸を素通り致し  
下痢を起す位の事でありませ、それで色々の人工  
營養品も製出されましたが、いづれもそのみで

は十分に小兒を育てる事は出来ません、矢張り牛乳の様な動物の乳を用ゆる他に仕方がない。けれ共、牛や馬の乳を用ゆる前に、人間の乳を用ゆる事が出来ると云ふことを考なければなりません、即ち乳媪を雇ふ事でありまして、母自らの乳をもつて養ふ事の出来ぬ場合には、乳媪を雇ふのはないのであります。然しながら、乳媪を雇ふのにも乳さへ出れば善いと云ふ譯にはいきません、これには十分其選擇を嚴重にする必要があります。若し乳媪を雇ふとする時には、醫師に検査をして貰へば一番宜いのであります、今こゝに其醫者が検査を依頼されました時に、乳媪に付いて如何なる處に氣を付けて、此の乳媪なればよろしい、或はこれはよろしくないと申すかを述べましたならば、これに由つて大概乳媪の選擇が出来ようと思ひますから次に其の大體を申し上げます。古の支那の醫書に乳母の性質、即ち親切であるとか薄情であるとか、性急であるとか、野呂間であるとか、凡て其德行の善惡迄其の乳を飲む小兒が皆似るものであつて、丁度植木屋が接木を爲る時

に其の接木が全く臺木の様に成ると同じ事であると申して居りますが、これは稍云ひ過ぎた様にも思はれますが然し面白い言葉であります。まづ乳媪は生みの母と略同じ頃に産をした者が最も良いのであります、然しそれよりも三週間或は五週間程前に分娩した者でもよろしい、これは乳が十分に出て長い間飲ます事が出来るからであります、又初めて産をした者でなくともよろしい、既に一人二人小兒を育てた者を選ぶのもよいのであります、その年齢は二十歳以上三十歳以下で、皮膚や髪の毛なども、成るべく小兒の母親に似て、齒は健全且つ綺麗で、其性質は神經質の者ではないかぬ、成るべく氣の落付た、オツトリした者を選ばねばなりません、尙本人の今迄の住生活状態、それから是迄重病に罹つた事があるか無いか、若し病氣をしたならば其病氣はドンナ病氣で有つたか、父母兄弟は健康であるかどうか、死んだ者があればそれは何んで死んだかを調べる、次に全體の體格を見て皮膚の状態から、齒齦や目の裏の色、殊にトラホーム様のものがありはせぬか、又

全體の肉付きから骨組、尙皮膚に斑點や癩痕などが  
ないか、頸や腋下などにグリー／＼が無いか、殊  
に齒は健全で澤山齶齒などはないか、唇などの爛  
れはないか、口中や鼻が臭くないか、腋臭がない  
か、と云ふ様な事も調べる、それから、心臓、肺  
臓、胃腸の具合等も診察し、尙生殖器官のあるな  
しも検査をする必要がありますが、これは普通む  
つかしい事でありませぬ。

次に是非調べたいのは、乳母の小兒の健康である  
か、どうかと云ふ事でありまして、其小兒に遺傳  
徴毒、腺病、其他の病症があつてはなりません。  
西洋では八釜敷これを檢べますので乳母に雇はれ  
る者が、往々他人の丈夫な小兒を借りて行つて醫  
者や雇主を欺く事が少なくないと云ふ事でありま  
す。

乳媼の乳房は、其見た處又重みに由つて乳が澤山  
にあるか、どうか分ります、まづ乳房の皮膚は  
張つて居つて、光澤があつて、太い青筋が皮膚の  
下に透いて見へなければなりません、又乳頭はい  
ちると直にかたくなり易く、その乳頭の長さも十

分小兒がからむ事が出来る様に突出て居つて傷な  
どがあつてはなりません。斯う云ふ乳房でありま  
すれば、先訛向きの物でありますが、一見脂肪  
に富んで居つて立派な乳房の様であつても、一向  
乳が出ないものもあり、又これに反して見た處は  
餘り豊かでないが、乳を出す腺の發育が良くて中  
々よく乳の出るものもありますから、乳房の檢べ  
も輕卒にはなりません。

一體よく乳の出る乳房の型と云ふ物は、眞桑瓜の  
様な格好を爲て居るもので、これが先最上のもの  
であります、其次にはそれよりも多少短くて少  
し垂れたもの又普通張り詰めて茶碗をかぶせた様  
な格好で圍りにひび筋のあるのは大概餘り乳の出  
ないのが多い様であります、其他力を入れて吸は  
なければ出難いものと、一寸吸ふて出るものとあ  
りますから、其出難いものになりますと、身體  
の弱い小兒には困難であります、それで小兒の強  
い弱いに由つて多少これも氣を付けなければなり  
ません。  
良い乳房は軽く壓した處で少なくとも、五六本の

腺から乳が奔ばしり小兒が既に満腹した後でも矢張り其位でなければなりません、兎に角乳媪を雇ふ時に一日程留めて置いて小兒に乳を吸はして見るに、大概二十分間も哺乳して、乳を飲みながら小兒が眠る様であれば、この乳媪は十分小兒を養ふに足るものと見てよろしいのであります。いよゝ乳媪を雇ふたとなれば、其乳媪がこれまで食べつけた飲養物を急に變へない様に、なるべく今迄の習慣を守らせるのが宜しいのであります、然しこれで以て小兒が消化障礙を起していつ迄も癒らない様な場合には、止を得ず又乳媪を替へなければなりません、而して最初より三時間毎に規則正しく乳を與へる様にして、嚴重にこれを守らしめて勝手な時に乳を飲ませる様な事は爲てはなりません、最もか弱い小兒であれば一時間或は二時間毎に少しづつ、乳を飲せなければならぬ様な事もありませす。尚乳を與へる度数に就いて一言申添へて置きますが、始めの一週間は、九回、第二週後は、八回、一ヶ月の末には、七回、それから後は六回位の割合で、例へば午前の六時、九時、十二

時、午後の三時、六時、九時に乳を與へて、夜の九時から朝の六時迄の間に小兒の欲しがる時にも一回位與へてもよろしいが、これは最初の一周間の間として、其後は朝迄なるべく與へず眠らしめる、こう云うふうには時間を守つて乳を與へまするならば、二十四時間に僅か、七回で澤山であります、最もこれとても、當り前の規則でありまして其小兒の強い弱いにも由り、又病氣の時などは醫者の相談を受けて多少變更しなければなりません。

## 婦人の服装

醫學博士 田代義徳氏談

婦人と袴 婦人の袴 學校に通ふ生徒は今日では殆ど皆袴を用ひて居ります、今から十四五年前、私の長女が高等女學校に通つて居つた時分に、學校で、筒袖を奨勵したが、二年生位までは筒袖も宜しいが、最早三四年生の間には、あまり歡迎